

【研究報告】

妊産婦の骨盤位に関する意識

—アンケート調査より—

滝 口 洋 司*1, 小 川 達 博*2, 野 間 純*2, 高 取 明 正*2

【要 旨】

骨盤位分娩した妊産婦が妊娠中・分娩中及び分娩後にどのような意識（特に分娩に対する不安感）を持ったかということをアンケートにより調査した。

広島赤十字・原爆病院産婦人科において、平成2年から平成12年の11年間に骨盤位分娩をした妊産婦74名にアンケートによる回答を依頼し、43名から回答をいただいた。

回答者の86%が分娩方式の決定は、産科スタッフの説明を参考にして決定した、と回答しており、妊娠後期の妊婦の約80%、分娩直前の妊産婦の約86%が不安感を抱いたと回答している。

また回答者の95%が産科スタッフの対応がよかったと回答している。

骨盤位妊婦の不安感を少なくし、骨盤位というハイリスク分娩をできるだけ円滑に成就させるためには、きめ細かいインフォームド・コンセントと誠意ある対応と医療の提供が大切であることを再認識させられた。

【キーワード】骨盤位、不安感、インフォームド・コンセント

緒 言

近年、医学の進歩により周産期死亡率は減少傾向にある。しかし骨盤位分娩の周産期死亡率や出生後の児に及ぼす副作用等は、頭位分娩に比し数倍高く、

表1 骨盤位分娩の頻度（広島赤十字・原爆病院）
平成2～12年（1990～2000年）

年 度	分娩総数	骨 盤 位	
		例 数	頻度%
2	352	6	1.7
3	365	2	0.55
4	319	1	0.31
5	371	7	1.89
6	458	6	1.31
7	397	9	2.27
8	383	2	0.52
9	397	8	2.02
10	375	10	2.67
11	354	11	3.11
12	416	12	2.88
計	4,187	74	1.77

骨盤位は、分娩介助にたずさわる産科スタッフにとり、依然として神経を使うハイリスク分娩であることには変わりはない。

同時に妊産婦側からみると妊娠の状態がどのような状態であろうとも、分娩に対する不安感が皆無という妊婦はいないであろう。特に自分の胎児が骨盤位と診断された妊婦にとって、その精神的な不安感、かなりのものであると推測される。

今回、郵送によるアンケート調査により、広島赤十字・原爆病院産婦人科で、平成2年から平成12年までの11年間に骨盤位分娩を経験した産婦の妊娠中・分娩中並びに分娩後の意識調査をしたので報告する。

調査対象並びに成績

1) 骨盤位分娩の頻度と帝王切開施行率（帝切率）

平成2年から平成12年までの11年間の全単胎骨盤位分娩は74例で、総分娩数4,187例の1.77%であった（表1）。なお、これを過去2度にわたり調査したものと比較すると表2のごとくである。即ち昭和44年

*1 日本赤十字広島看護大学 takiguchi@jrchen.ac.jp

*2 広島赤十字・原爆病院、産婦人科

表2 骨盤位分娩の頻度（広島赤十字・原爆病院）
昭和44（5月）～平成12年（1969・5～2000年）

幾分娩中の単胎骨盤位	昭和44（5月）～53年		昭和54～平成1年		平成2～12年	
	例数	頻度（%）	例数	頻度（%）	例数	頻度（%）
	136/5,322	2.56	152/4,236	3.58	74/4,187	1.77
初経別	初産 92	67.6	初産 78	51.3	初産 53	71.6
	経産 44	32.4	経産 74	48.7	経産 21	28.4

表3 骨盤位帝切率（広島赤十字・原爆病院）
昭和44（5月）～平成12年（1969・5～2000年）

	昭和44（5月）～53年			昭和54～平成1年			平成2～12年		
	例数	帝切数	頻度（%）	例数	帝切数	頻度（%）	例数	帝切数	頻度（%）
単胎骨盤位	136	16	11.8	152	31	20.4	74	58	78.4
初産	92	11	12.0	78	22	28.2	53	44	83.1
経産	44	5	11.4	74	9	12.2	21	14	66.7

（5月）から昭和53年に至る9年8カ月間の骨盤位分娩の頻度は2.56%，昭和54年から平成1年の11年間では3.58%であった（表2；小川，志田原，滝口，1991）。

帝切率は昭和44年（5月）からの9年8カ月間は11.8%，昭和54年からの11年間は20.4%で（小川他，1991），今回調査した平成2年からの11年間で78.4%で，帝切率は近年殊に高くなっている（表3）。

2）アンケート回答依頼方法と回収率

平成2年から平成12年の11年間に骨盤位分娩を経験した産婦74名に，平成12年10月から平成13年1月の4ヶ月間を調査期間とし郵送によりアンケートに対する回答（無記名方式）を依頼した。43名から回答があった。回収率は58.1%であった。

3）骨盤位診断の妊娠週数

回答者43名が骨盤位という診断を受けた時点（妊

表4 最初に骨盤位と診断された妊娠週数

妊娠週数	A ～20	B 21～24	C 25～28	D 29～32	E 33～36	F 37～	合計
初妊婦	1	3	9	17	1	0	31
経産婦	1	1	4	6	0	0	12
合計	2	4	13	23	1	0	43

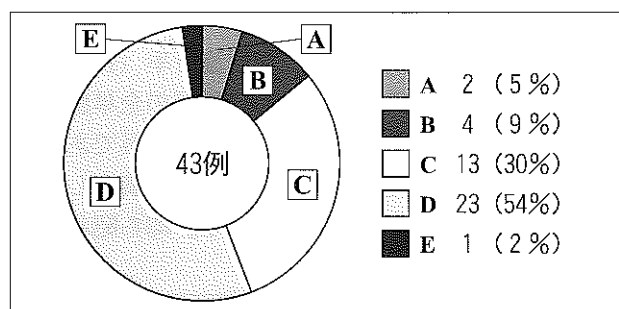


図1-1 最初に骨盤位と診断された妊娠週数

娠週数）は表4，図1-1，図1-2，図1-3のとおりである。

最も早期のものは初妊婦・経産婦共に妊娠20週で，最も遅いものは初妊婦の妊娠34週であった。最も多いのは，妊娠29～32週群で23名（53.5%），次いで妊娠25～28週群の13名（30.2%）であった。

4）アンケートの質問と回答内容

今回のアンケートの質問と回答は次の通りである。

(1)最初に骨盤位と知った時，どんな気持ちでしたか
ものすごいショックをうけたと回答したものは3名（7%）で，ショックをうけたが，気を取り直したものの10名（23%），軽いショックをうけたが不安感は無かったもの25名（58%），たいした不安感が

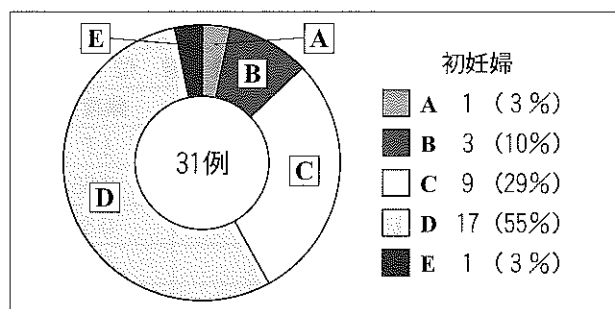


図1-2 最初に骨盤位と診断された妊娠週数

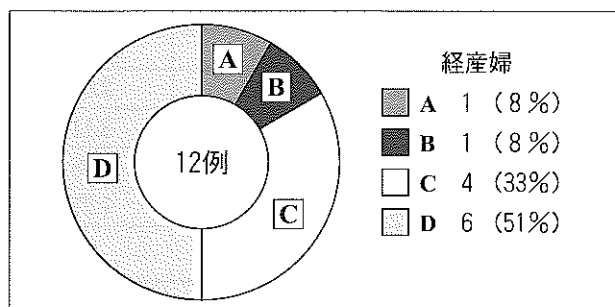


図1-3 最初に骨盤位と診断された妊娠週数

なかったもの5名(12%)という結果であった(表5, 図2-1, 図2-2, 図2-3)。

表5 最初に骨盤位を知った時, どんな気持ちでしたか

A	ものすごいショックをうけ非常に不安になった
B	ショックをうけたが, しばらくして元気を出そうと気をとりなおした
C	軽いショックをうけたがあまり大きな不安感はなかった
D	別にたいした不安感はなかった

	A	B	C	D	合計
初妊婦	3	8	17	3	31
経産婦	0	2	8	2	12
合計	3	10	25	5	43

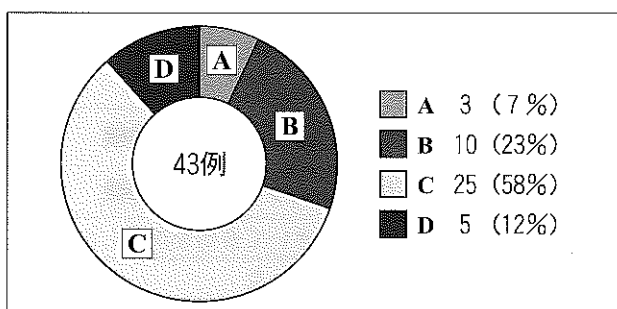


図2-1 最初に骨盤位を知った時, どんな気持ちでしたか

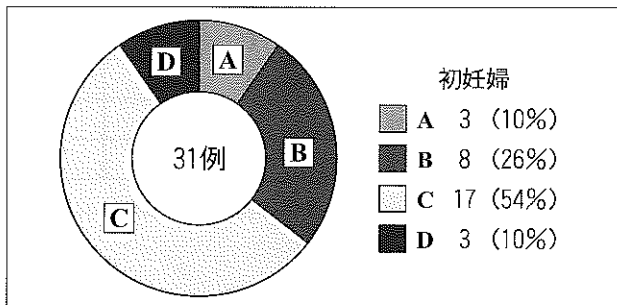


図2-2 最初に骨盤位を知った時, どんな気持ちでしたか

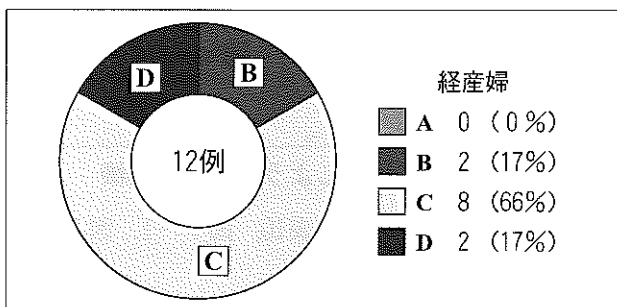


図2-3 最初に骨盤位を知った時, どんな気持ちでしたか

(2)自宅で行ゆるさかごの矯正体操(胸膝位)を試みましたか

胸膝位を試みたものは40名(93%)であったがその中5名(11.6%)が途中で中止している(表6, 図3-1, 図3-2, 図3-3)。

表6 自宅でいわゆるさかごの矯正体操(胸膝位)を試みましたか

A	しなかった
B	数回試みたが効果がなかったのでやめた
C	この体操中または後に腹部緊張感があったのでやめた
D	何回も試みたが矯正できなかった

	A	B	C	D	合計
初妊婦	3	3	1	24	31
経産婦	0	1	0	11	12
合計	3	4	1	35	43

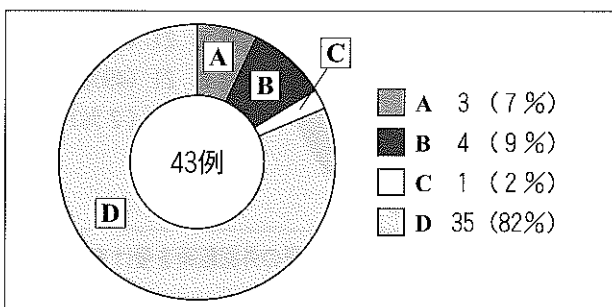


図3-1 自宅でいわゆるさかごの矯正体操(胸膝位)を試みましたか

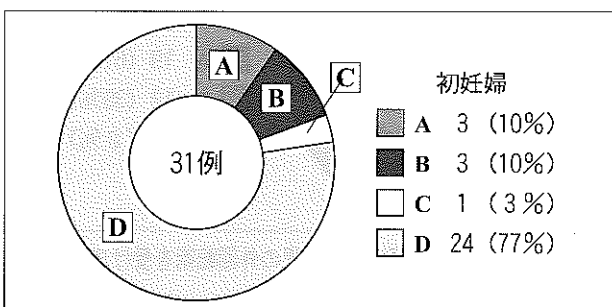


図3-2 自宅でいわゆるさかごの矯正体操(胸膝位)を試みましたか

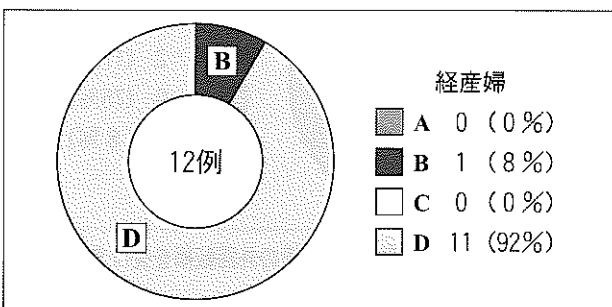


図3-3 自宅でいわゆるさかごの矯正体操(胸膝位)を試みましたか

(3)外来で医師による胎児の外回転術を受けましたか
外回転術をうけたことのあるものは22名(51%)であった(表7, 図4-1, 図4-2, 図4-3)。
(4)分娩方式(経膈分娩あるいは帝王切開)を決めた動機は何でしたか

経膈分娩の決心をした妊婦13名中10名と, 帝切の決心をした妊婦30名中26名, 計36名(84%)が「医師や助産婦の説明を聞いて分娩方式を決めた」と回答している(表8, 表9, 図5, 図6)。

表7 外来で医師による胎児の外回転術を受けましたか

A	受けなかった
B	1・2度受けたが矯正出来なかった
C	何回も受けたが矯正できなかった

	A	B	C	合計
初妊婦	19	12	0	31
経産婦	2	9	1	12
合計	21	21	1	43

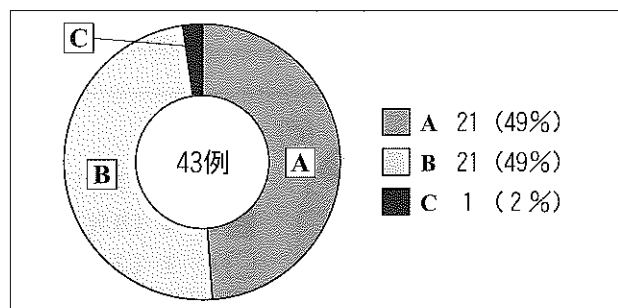


図4-1 外来で医師による胎児の外回転術を受けましたか

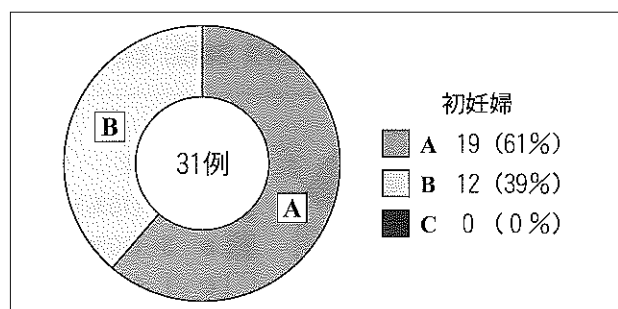


図4-2 外来で医師による胎児の外回転術を受けましたか

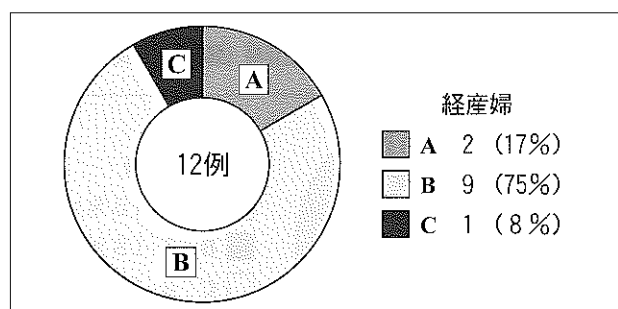


図4-3 外来で医師による胎児の外回転術を受けましたか

(5)妊娠後期の不安感

骨盤位妊娠の妊婦さんに限らず、どなたでも妊娠後期になると、不安感のあるのは当然です。特に骨盤位妊娠の妊婦さんはご心配が多かったと思います。あなたは予定日が近づいた頃はいかがでしたか〈経膈骨盤位分娩をした産婦、及び経膈分娩の途中で緊急帝王切になった産婦〉

経膈分娩を行うことにしていた産婦の10名(77%)が「経膈分娩に対して迷いがなかった」と回答した。特にそのうち1名は「医師に一任すると決めていた」と回答し「帝王切開にしようか」と悩んだのは3名

表8 経膈分娩しようと思った動機

A	医師や助産婦の説明をきいて経膈分娩を決心した
B	初めての分娩だから最初から帝切しなかった
C	経産婦だから経膈分娩でも大丈夫だと思った

	A	B	C	合計
初妊婦	6	2	0	8
経産婦	4	0	1	5
合計	10	2	1	13

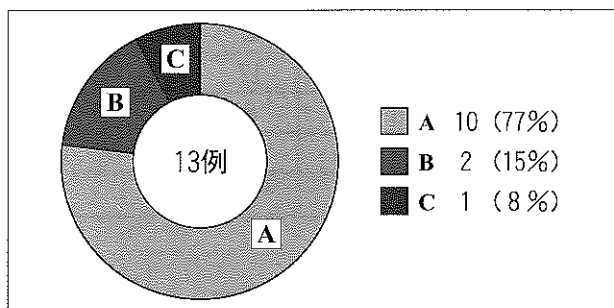


図5 経膈分娩しようと思った動機

表9 帝王切開しようと思った動機

A	医師や助産婦の説明をきいて帝切を決心した
B	陣痛で苦しむのがいやだった
C	骨盤位分娩がこわかった
D	骨盤位矯正位が不成功だったので

	A	B	C	D	合計
初妊婦	21	1	1	0	23
経産婦	5	0	1	1	7
合計	26	1	2	1	30

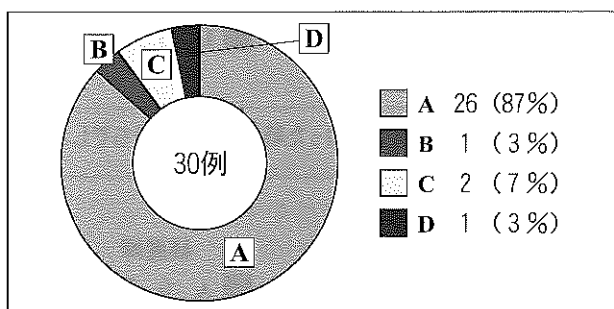


図6 帝王切開しようと思った動機

(23%)にすぎなかった(表10, 図7-1, 図7-2, 図7-3)。

〈予定帝王切骨盤位分娩をした産婦〉

最初から帝王切開ときめていた産婦30名のうち24名(80%)が「やはり心配だった」と回答している(表11, 図8-1, 図8-2, 図8-3)。

(6)分娩直前の不安感

〈陣痛室または分娩室にいる時、あるいは帝王切のため手術室に入る時不安感はいかがでしたか〉

陣痛室や分娩室での不安感については経膈分娩を

表10 妊娠後期の不安感

経膣分娩例及び経膣予定にて緊急帝王切になった例

A	経膣分娩をやめて帝王切開にしようかと悩んだ
B	経膣分娩で生むことに迷いはなかった
C	医師に一任すると決めていたので迷いはなかった

	A	B	C	合計
初妊婦	2	5	1	8
経産婦	1	4	0	5
合計	3	9	1	13

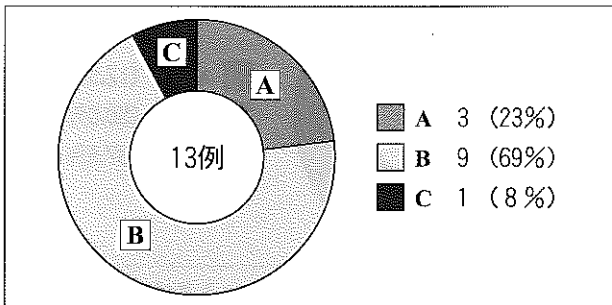


図7-1 妊娠後期の不安感

経膣分娩例及び経膣予定にて緊急帝王切になった例

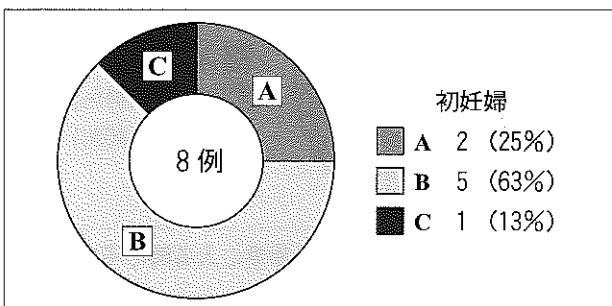


図7-2 妊娠後期の不安感

経膣分娩例及び経膣予定にて緊急帝王切になった例

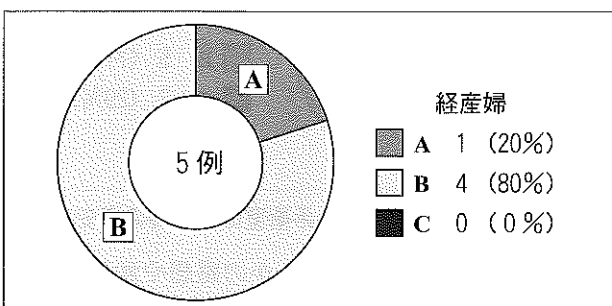


図7-3 妊娠後期の不安感

経膣分娩例及び経膣予定にて緊急帝王切になった例

行った産婦11名のうち、不安感のなかったのは2名、多少の不安感があったのは8名で、強い不安感があったのは1名のみであった(表12, 図9-1, 図9-2, 図9-3)。

帝王切開のため手術室に搬送される時、全く不安感がなかったのは32名中4名(13%)にすぎず、多少の不安感のあったのは16名(49%), 不安感の強

表11 妊娠後期の不安感

最初から帝王切開の予定だった例

A	最初から帝王切開の予定だったがやはり心配だった
B	最初から帝王切開の予定だったので全然不安感なかった

	A	B	合計
初妊婦	19	4	23
経産婦	5	2	7
合計	24	6	30

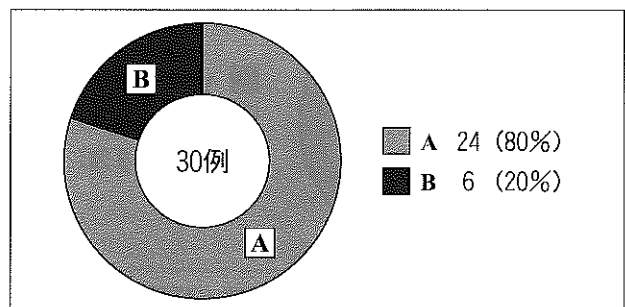


図8-1 妊娠後期の不安感

最初から帝王切開の予定だった例

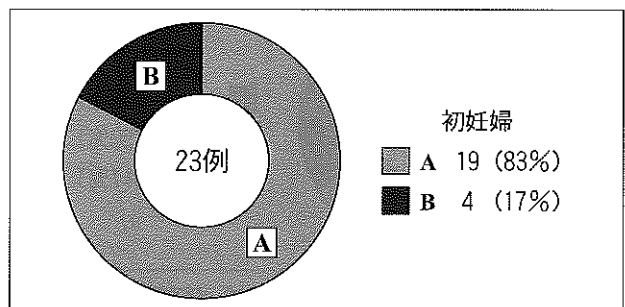


図8-2 妊娠後期の不安感

最初から帝王切開の予定だった例

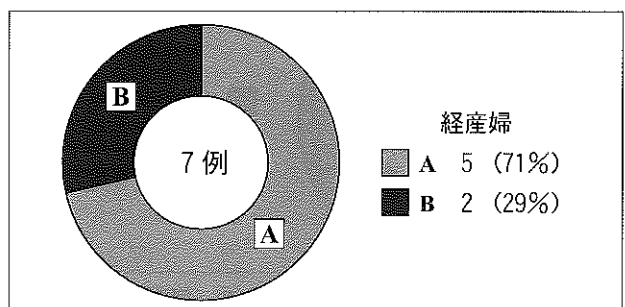


図8-3 妊娠後期の不安感

最初から帝王切開の予定だった例

かったのは12名(38%)であった(表13, 図10-1, 図10-2, 図10-3)。

(7)入院時から手術・分娩そして退院にいたるまでの産科スタッフ(医師・助産婦・看護婦)の産婦さん(あなた)に対する接し方はいかがでしたか(表14, 図11-1, 図11-2, 図11-3)

表12 分娩直前の不安感（経膣分娩）
陣痛室や分娩室での不安感は

A	ぜんぜん不安感は無かった
B	多少の不安感があった
C	不安感が強かった

	A	B	C	合計
初妊婦	2	3	1	6
経産婦	0	5	0	5
合計	2	8	1	11

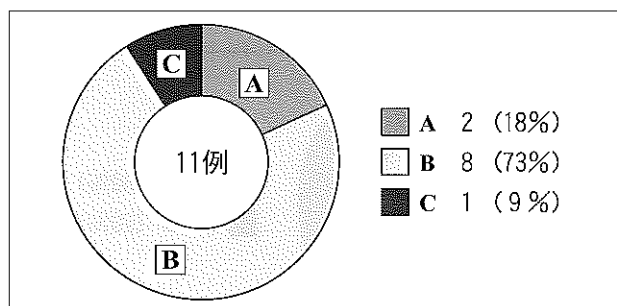


図9-1 分娩直前の不安感（経膣分娩）
陣痛室や分娩室での不安感は

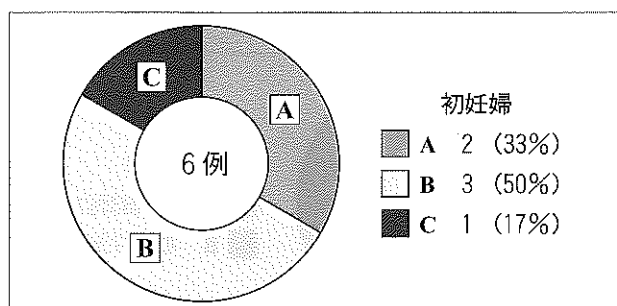


図9-2 分娩直前の不安感（経膣分娩）
陣痛室や分娩室での不安感は

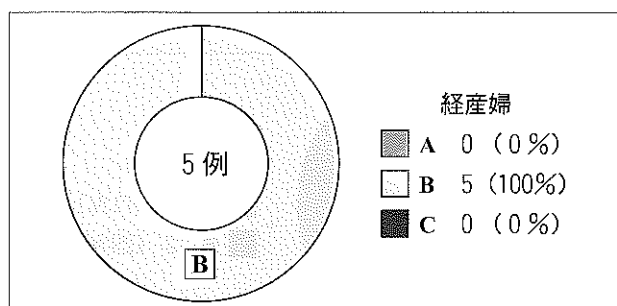


図9-3 分娩直前の不安感（経膣分娩）
陣痛室や分娩室での不安感は

回答のあった43名中19名（44%）が「非常によかった」、22名（51%）が「よかった」と評価し、「まあまあ」が2名（5%）で、「わるかった」というのは、いなかった。

(8)骨盤位の妊娠・分娩・産後を通してお感じになったことや、産科スタッフに対する要望やご意見がありましたらお書きください

表13 帝王切開のため手術室に入る時の不安感は

A	ぜんぜん不安感は無かった。安心してた
B	多少の不安感があった
C	不安感が強かった

	A	B	C	合計
初妊婦	4	11	10	25
経産婦	0	5	2	7
合計	4	16	12	32

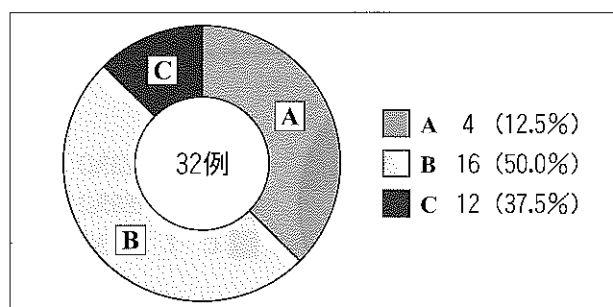


図10-1 帝王切開のため手術室に入る時の不安感

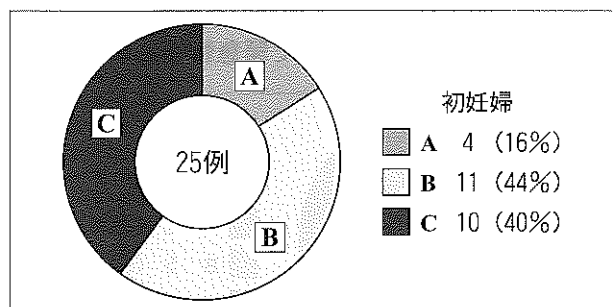


図10-2 帝王切開のため手術室に入る時の不安感

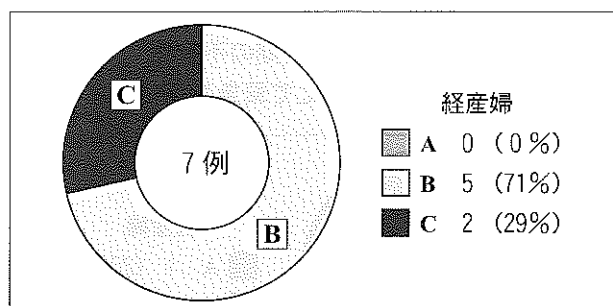


図10-3 帝王切開のため手術室に入る時の不安感

43名の回答の内38名が何らかの感想や意見を述べている。いずれも貴重なものであるが、そのうちの4例を表15に抜粋する。

考 案

今回われわれが調査した骨盤位妊産婦の意識調査は、対象となるべき正常妊娠の妊産婦に対するアンケートの調査を行わなかったため、正常経過の妊産婦の意識と骨盤位の妊産婦の意識（特に不安感）との比較はできなかった。また不安感を STAI や POMS

表14 入院時から分娩（手術）そして退院にいたるまでの
医師・助産婦・看護婦の産婦（あなた）に対する接し方は

A	非常によかった
B	よかった
C	まあまあ
D	わるかった

	A	B	C	D	合計
初妊婦	14	16	1	0	31
経産婦	5	6	1	0	12
合計	19	22	2	0	43

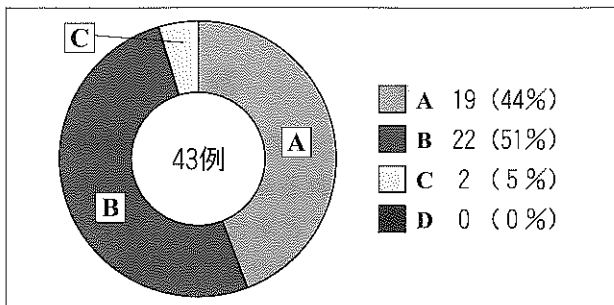


図11-1 医師・助産婦・看護婦の対応は

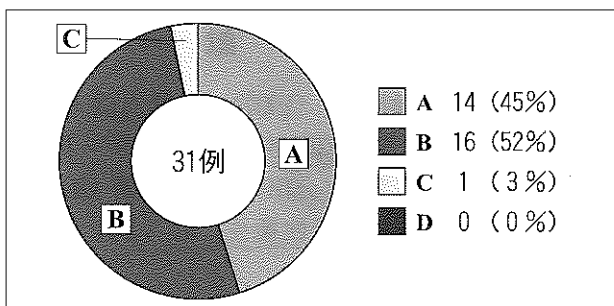


図11-2 医師・助産婦・看護婦の対応は

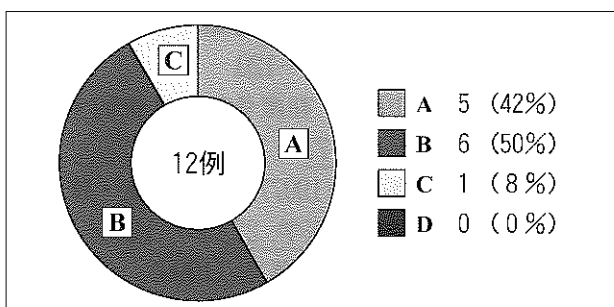


図11-3 医師・助産婦・看護婦の対応は

表15 骨盤位での妊娠・分娩・産後を通しての
感想および産科スタッフへの要望・意見

1. こちら（東京）では早めに帝王切開をといわれていたが、そちらでは最後まで経陰分娩させていただきお蔭さまで2人目も経陰分娩ができました。
2. そちらの病院では骨盤位の説明を十分にさせていただき安心して帝王切開を決心しました。
3. 2人目を妊娠していますが、最初が帝王切開なので次も帝王切開の可能性が強いといわれて少しショックでした。
4. 帝王切開のお腹の癍痕が気になります。

指標等による数的評価もできなかった。

今回のアンケートで「最初に骨盤位を知った時に強いショックを受けた」と回答したのは、僅か3名（7%）にすぎず、反面、たいした不安感を持たなかったものも5名（12%）であった。他の35名（81%）という大多数が最初受けたショックを何らかの形で払拭していた。妊娠・分娩というある意味では、女性として最大のヤマ場を迎えた妊婦の精神力の強さを物語るものとして興味深い。

胸膝位による骨盤位の自己整復促進法や外回転術の有効性と副作用に関してはいろいろと論議されている（金岡，1999）。

著者らは骨盤位の妊婦に対して胸膝位や外回転術の有効性と副作用を十分説明するよう心がけている。今回も回答者のうち35名（81.4%）が胸膝位による骨盤位の自己整復促進法に対して積極的に取り組んでおり、骨盤位というハイリスク妊娠から、なんとか脱却しようという妊婦の熱意がうかがわれる。

骨盤位妊婦の最大の悩み（不安感）は、「経陰分娩か、帝王切開か」という問題である。この悩みは分娩を介助する産科スタッフにとっても難しい課題である（西島，吉原，1997；平岡，竹村，1997；前田他，1998）。

「経陰骨盤位分娩を決心した動機」及び「帝切しよう」と決心した動機」に対する回答から、「医師や助産婦の説明」が、妊婦の「分娩方式決定」のいかに重要な要素になっていたか、ということがわかる。

改めてハイリスク分娩におけるインフォームドコンセントの重要性を再認識させられた。

精神力の強い妊婦も、反面では、妊婦独特の不安感をいだいている。妊婦のいさぐ不安感について、岩田，山内，三田村，森田（2000）はSTAIにより妊婦の不安得点の分析を行い、「経産婦より初妊婦が」、また「正常妊婦よりハイリスク妊婦」の方が不安感が強かったと報告している。

今回の調査による妊娠後期の不安感をみると、最初から経陰分娩の予定だった産婦と経陰の予定で緊急帝切になった産婦の23%が「経陰をやめて帝切にしようか、と悩んだ」といっている。また予定帝切分娩をした産婦の80%が「最初から帝切の予定だったが、やはり心配だった」と回答している。

陣痛室での待機中や分娩室あるいは手術室に搬入される時のいわゆる分娩直前の不安感をみると、ぜんぜん不安感がなかったものは経陰分娩例では2名（18%）、帝切例では4名（13%）で、他の大部分は不安感をいだいており、特に経陰分娩例の1名と帝

切例の12名の計13名(30%)が「強い不安感」をいただいていた。

以上のごとく妊娠後期や分娩直前における骨盤位分娩の妊産婦は、かなりの頻度で不安感をいただいていることがわかる

当然のことながら、そのような妊産婦に対する医師・助産婦・看護婦等いわゆる産科スタッフの妊産婦への接し方・対応が非常に大切である。今回のアンケートでは、産科スタッフの対応に対し「非常によかった」(44%)を含む95%から「よかった」の回答をいただき、「わるかった」という回答は、1例もなかった。今後とも妊産婦に対し、きめ細かい説明を含む誠意ある対応に心がけて、全員から「非常によかった」といっていただけるよう努力したいものである。

なお、骨盤位の妊娠・分娩・産後を通してのその他の感想として、多くの回答をいただいた(表15)。これらの中には、骨盤位の管理に対する重要な問題が含まれている。例えば、里帰り分娩で、しかも骨盤位分娩した例では、里帰り前の妊婦検診と里帰り後の妊婦検診を行った医師の骨盤位矯正法や分娩方式に対する考え方の相違が、妊産婦の不安感の原因になっていることがわかる。里帰り分娩については別途検討の予定である。

上条他(1997)は、妊婦の骨盤位に対する意識を調査し、医療者の説明の必要性和帝王切開による腹部瘢痕の身体的・精神的苦痛について言及している。今回回答いただいた帝切分娩例32名の中では手術の瘢痕を気にしているのは、2名であった。

骨盤位分娩に対する帝王切開の適応の問題や術後瘢痕の問題も別途検討すべき問題である。

結 語

広島赤十字・原爆病院産婦人科において平成2年から平成12年までの11年間に骨盤位分娩をした妊産婦74名に、妊娠・分娩・産褥期における意識調査(アンケート)を行い43名から回答を得た。

1. 最初に骨盤位の診断を受けた時、「おおきなショックをうけた」と回答したのは3名(7%)で、「おおきな不安感はなかった」と回答したのは30名(70%)であった。
2. 43名中36名(83.7%)が分娩方式決定の動機は医師や助産婦の説明だったと回答しており、インフォームドコンセントの重要性を示唆している。
3. 妊娠後期には経膈分娩予定の23%、予定帝切分娩80%の妊婦に不安感があった。

4. 分娩直前の陣痛室・分娩室・手術場搬入時における不安感も、86%がいただいており、特に30%が「強い不安感をいただいた」と回答している。
5. 入院中の妊産婦に対する産科スタッフの対応に関しては、95%が「よかった」と回答している。
6. 今回のアンケート調査では「骨盤位というハイリスク妊娠の妊産婦の不安感を少なくするには、「きめ細かいインフォームドコンセントが大切である」ということと、「誠意を持って骨盤位妊産婦の検診や分娩介助に対応してゆくことに意義がある」という医療の原点を再認識させられた。

謝 辞

今回、回答をよせられた43名の骨盤位分娩例では、骨盤位分娩によると思われる発育障害や副作用はないとの回答をいただいたことを付記し、アンケート回答にご協力いただいた産婦の方々に深謝いたします。

文 献

- 1) 平岡仁司, 竹村秀雄(1997). 分娩方法・様式～経膈か帝切か. 周産期医学, 27(9), 1197-1201.
- 2) 岩田銀子, 山内葉月, 三田村保, 森谷繁(2000). 妊婦の不安の分析. 母性衛生, 41(2), 201-206.
- 3) 上条陽子他(1997). 妊婦の骨盤位に対する意識. 母性衛生, 38(3), 1734.
- 4) 金岡毅(1999). 骨盤位の妊娠時管理. 産婦人科治療, 78(増刊), 116-120.
- 5) 前田光士他(1998). 初産骨盤位は帝切すべきか?. 産婦人科治療, 77(1), 123-128.
- 6) 西島正博, 吉原一(1997). 分娩方法・様式～経膈か帝切か. 周産期医学, 27(9), 1193-1196.
- 7) 西島正博, 天野完, 斎藤克(1999). 骨盤位分娩. 産婦人科の世界, 51(11), 1049-1056.
- 8) 小川達博, 志田原睦雄, 滝口洋司(1991). 広島赤十字・原爆病院産婦人科における骨盤位分娩の臨床統計. 広島医学, 44(6), 853-857.

The Feeling of Women Who Have Pregnancies Resulting in Breech Presentation

Youji TAKIGUCHI*, Tatsuhiro OGAWA, Jun NOMA** & Akimasa TAKATORI****

Abstract:

The management of breech presentation is an area of intense controversy.

Women who have pregnancies of breech presentation many feel anxiety about their deliveries. The authors asked the women who had been delivered of breech presentation from January 1990 to December 2000 at Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital about their feeling on the breech delivery.

Thirty-four women gave answers to our questionnaires. They had decided the methods for their breech delivery according to the explanations of doctors, midwives, and nurses. So, informed consent is one of the most important points for success in high-risk delivery.

Eighty percent or more women in the third trimester or just before delivery had felt anxieties about their delivery.

The authors confirmed that detailed informed consents and the sincere dealings with the patients who have pregnancies of breech presentation are very important to decrease their anxieties about breech delivery.

Keywords:

breech presentation, anxiety, informed consent

* The Japanese Red Cross Hiroshima College of Nursing

** Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital